

## Weimar 独日協会

### Lohmann 会長よりの礼状

(抜粋)

今、私の乗っている日本から帰りの飛行機はモスクーの上空辺りを飛んでいます。今回の訪日には湘南日独協会の皆様が秒単位の詳細なプログラムで私達の世話をしてくださり心より感謝申し上げます。私達はこの盛大な歓迎ときめ細かいもてなしに大変感動しています。

10周年記念祝賀会でいただいた感謝状はたぶん私のいるアートホテルの良い場所に飾ることになるでしょう。内輪の話になりますが、今回の旅行は副会長のBauhausさんの献身的な努力もあって、何の問題もなくすべてうまく行きました。皆さんは準備に多大の労力を使われたと思いますが、お互いの出会いを喜んでいただけたであろうことを望みます。我々は出会いを本当に楽しみました。

湘南日独協会の皆様、特に各地の見物にご同行いただいた皆様にはくれぐれもよろしく御礼をお伝えください。祝賀会は大変素晴らしかった。そしてそこでまた多くの方々と知り合い、これまでの両協会の絆を更に深めることが出来喜んでいきます。旅行参加者は全員深く感謝しています。

用意して下さった座談会では両協会の今後の協力活動についてお話できました。お預けしたファンド(81,000円)で、若者のWeimarへの訪問を実現させてください。

来年、訪独されるであろう方々をどの様にお迎え出来るか、Bauhaus副会長と検討します。

### Bauhaus 副会長からの礼状

(抜粋)

今回の訪日には貴協会の絶大なご支援をいただき深く感謝申し上げます。

帰国後さすがに数日は疲れていました。昨日生け花指導に行ってきました。旅の仲間と3・5年後にまた日本に行こうと話しました。私は来年春に生け花の講習を受けに訪日します。その際、湘南日独協会でドイツについての講演が出来ればと考えています。

今回の訪問で両協会の絆がさらに深まったことは大変うれしく、次回は皆様をWeimarでお迎えできれば何よりです。

## 湘南日独協会 2009 年度活動予定

### ■第61回例会と定例総会

演題 田島直人とベルリンオリンピック

田島直人は前2回のオリンピックに続き、ベルリンオリンピックで3個目の金メダルを獲得して三段跳びは日本のお家芸であることを世界に知らしめる功績を残した。

特にこの跳躍では世界記録を作り、それは長く破られなかった。記録映画を見ながら、この偉業を達成するにいたった田島直人はどのような人物であったのか、生い立ちから金メダルまでを諸資料を参考に探っていく。

講師 織田正雄氏(当協会会長)

日時 1月25日(日) 午後1時30分～3時30分

会場 湘南アカデミアサロン(江ノ電第2ビル7階)

会費 会員 1,000円 一般 2,000円

※講演会終了後に定例総会を行います。併せて役員改選も行います。

### ■会員懇話会

日時 2月28日(土) 18:00～20:00

### ■第62回例会

日時 3月22日(日) 18:00～20:00

### ■会員懇話会

日時 4月25日(土) 18:00～20:00

### ■第63回例会

日時 5月24日(日) 13:30～16:00

### ■会員懇話会

日時 6月27日(土) 18:00～20:00

### ■第64回例会

日時 7月26日(日) 13:00～16:00

### ■会員懇話会

日時 8月22日(土) 18:00～20:00

### ■第65回例会

日時 9月?日(日) 18:00～21:00

### 第3回

## “湘南オクトーバーフェスト”

### ■会員懇話会

日時 10月24日(土) 18:00～21:00

### ■第66回例会

日時 11月22日(土) 13:00～16:00

☆望年会 …… 日時未定。実行委員会により実施予定。

# 草の根の日独交流を

当協会創立 10 周年を機に姉妹協会である Weimar 独日協会の一行 20 名が来日されました。この機会に両協会を代表する方々に今回の来日の意義と今後の展望などについて語り合っていました。

## 【座談会出席者】

Christian Lomann ワイマール独日協会会長

Ingrid Bauhaus ワイマール独日協会副会長

織田正雄 湘南日独協会会長

松野義明 湘南日独協会副会長

織田 最初に今回の Weimar の皆さんの訪日での印象をお伺いしましょう。

ローマン 先ず湘南日独協会の皆様の心温まる歓迎に感動しています。私は 2 度目の来日ですが、歓待に心からお礼申し上げます。

パウハウス 私は池坊の華道を勉強していますから毎年来日しています。

特に鎌倉は好きです。

そして何より湘南日独協会の方々と知り合い、友人になれたことが嬉しいのです。

ローマン 今回訪日した 20 名の参加者は全員日本を高く評価し尊敬しています。今回は京都・奈良・伊豆で数々の日本の伝統文化を見せてもらいました。木造の建築物には 1 千年の伝統が息づいていますね。

パウハウス 座禅とお茶席では日本人の控え目な姿勢がとても印象的でした。特にお茶席では床の間に生け花がありましたが、これも大変控え目で、慎ましい印象を受けました。日本人の基本的な生活態度が常に慎ましいように思います。

伊豆・修善寺の浅羽旅館でも旅館の方々は私達への接し方が大変礼儀正しく、控え目でした。全般には日本人はせかせかしている印象もありますが、鎌倉の小町通りでは通行中の方が私たちに「何かお助けできますか」と声を掛けて下さる方々もありました。

ローマン Bauhaus さんの言う通り、日本人は控え目です。ドイツでも “weniger ist mehr” と言いますがいろんな面での控え目が結局は大きなことに繋がるのだと思います。お茶や生け花にも慎ましさ 控え目が随所にみられますね。

それから日本人の人に奉仕する態度は日本人の美德と言えるでしょう。ドイツでも人に奉仕することが現在大事なテーマとなっています。日本で出会ったタクシーの運転手さんも奉仕の精神に満ちていました。ドイツに戻ってこのことを皆に話そうと思います。

松野 日本人の生活態度が控えめで慎み深いというお褒めの言葉を頂きましたが、今の若い世代についてもそうであるかどうか疑問に思っています。日本の今の教育では自分の意見のない子供が育つのではないか

と危惧しています。

ローマン 私は楽観的です。私は今回、息子二人を連れてきました。グループの中での生きかたを学ばせる為でした。私は今回の訪日で毎日いろいろな気持ち良い経験をしました。

パウハウス ドイツの独日協会では若者支援を心掛けています。先日 3 人の女子高校生が独日協会に訪ねてきました。

卒論に芸者について書きたいとのことでしたから、いろいろ資料を見せ、

芸者についての間違った知識を直してやりました。彼らは研究発表もしました。

松野 自分の意見をしっかり持ち、それを主張することは大変重要なことです。日本の学校では自分独自の意見を醸成し、それを主張できる場が少ないと思っています。

ローマン ドイツでは個人の意見が大変尊重されます。

織田 日本の学校制度はドイツのそれとは大きく異なっていますから当然かも知れませんが。

パウハウス 私は毎年訪日していますが、毎回変わっていく、その速さは凄いですよ。特に若者のモードの変わり方の速さには驚きます。これも自己主張の一つかもしれませんよ。(笑) ドイツの変化はもっとゆっくりです。

松野 一つの提案ですが、10 ないし 15 歳くらいの青少年を、夏休みなどを利用して、ドイツと日本で交換ホームステイをさせ、若いうちからお互いに異文化に触れさせるのもよいのではないのでしょうか。

パウハウス まず Weimar と鎌倉でお互いに 1 名を送ることから始められないでしょうか。2 週間だけでも良い。

織田 大学生でもよいのではないのでしょうか。

ローマン 大学生でも良いですね。小さくスタートさせましょう。

松野 10 か 12 歳の子供で始めるのもよいと思います。

パウハウス これはスタートとしては良い案だと思います。一旦スタートすれば “ドミノの牌” 式に続くでしょう。

織田 ドイツと日本の各協会のいくつかはすでに学生の交換を行っています。

パウハウス 大きな協会では Neuert 夫人がまとめてやっていますが、何時かは忘れられる恐れがあります。Weimar と湘南の両協会が協力してやるのが一番長続きするし、確実だと思います。

ローマン 若者交流については毎日の様に議論しています。職業教育もありますが、子供の教育はまず両親から…ということが今日言われていることです。

織田 職業教育について言うなら、日本はまだ経験が浅く、ドイツからくる研修生は殆ど日本にあるドイツの企業で研修している状態です。

ローマン 我々は協会として何が出来、何をやるべきか早急に話し合わなければいけない。小さな事からでも、始めること。検討グループを作って話し合



パウハウスさん



ローマンさん

いましょう。

**織田** Vondran 氏から全独日協会の今後の基本的な方針のレターが来ました。重点は若者を育てることに置かれていました。

**ローマン** Vondran 氏の意見には賛成です。

**パウハウス** その方針は良いと思います。それではここで仮のミニ合同理事会ということにしましょうか。私たちは今度の来日に際し、貴協会が多大の応援をして下さったことへのお礼として 600 ユーロ (81,000 円) を貴協会の活動に寄付したい。さらにユーロを円に換えてきました。そして我々が貴協会からの訪問者一人を空港迎えから始めてお世話する旨を記した「約束手形」を持参しており、18 日 (10 周年記念祝賀会当日) にお渡しします。一人の若者を選ぶ方法としては、たとえば中学校で何かコンクールなどを実施するのはどうでしょうか。

**織田** 実際問題として若者選びがなかなか難しいでしょうね。(笑い)

**パウハウス** 2009 年には Weimar から一人を日本に送るつもりです。

**松野** 私の家では、昔、ドイツ人の 19 歳の少女を一年あまり預かった経験があります。日本滞在中に日本語がとても上手になりました。現在はイタリアのハンドバッグメーカーのオーナーと結婚して、日本に支店を出すときには彼女が日本語能力を活かして大活躍でした。成功例の一つと言えるでしょう。

**織田** 鎌倉・円覚寺での座禅の印象は如何でしたか？

**ローマン** 座禅は私たちの希望で、これを叶えていただけてとても有難く思っています。人間たるべきものを座禅から学ぶことが出来る…ということを実感しました。座禅でも「控え目」が印象的でした。座禅をしたお寺の建物も心地の良いものでした。

高德院 (鎌倉大仏) で体験したお茶席は基本的には理解が難しい分野です。日本人にとっても、ある人には通常のことであっても、他の人には特別のことではないのでしょうか。お茶では内面の落ち着きが得られると思います。日本人は内面的に充実した生活を送っていると感じました。

ドイツでは仕事は慰み (Spass) だと言います。慰みでなく喜び (Freude) でなければいけない。ドイツは、いわば「慰み社会」(Spassgesellschaft) なのです。

**松野** 座禅では黙考 (Meditation) で思考 (Denken) ではないのです。

**パウハウス** 思考しない (Nicht Denken) は説明が難しい。(笑い)

**ローマン** さて全体の印象についてお話をさせていただきます。今回 20 名で来ましたが、参加者の皆さんは事前に日本についていろいろ勉強しました。参加者からも事前に種々の質問が出ました。布団の使い方、買い物の仕方、電話のかけ方、トイレの使い方…などです。(笑い)

伊豆・修善寺の浅羽旅館 1 泊は忙しい旅の中で只一回の休日となつてとても良かった。しかしどれが一番印象的だったかは難しい。すべて良かったから。



織田さん

**松野** Weimar にも銀杏の木がたくさんありますが、市のシンボルということになっているのですか。

**パウハウス** 確かに有名です。(笑い) Weimar の銀杏をゲーテが植えたと言う人がいますがそれは違います。ゲーテは銀杏を愛し、「銀杏の葉」という有名な詩を書きました。しかし銀杏は Weimar 市のシンボルの樹ではありません。

Weimar のカトリック教会にある銀杏は実が出来ますが、それを誰もどうしていいかわかりません。(笑い) 将来、日本に銀杏を輸出出来るかも知れませんね。どうやったら食べられるかが分かれば、私たちも食べてみたいです。銀杏の葉の樹液で、オリーブの様に瓶に入った薬品はあったと思います。

**ローマン** 初めて日本旅行をした二人の息子が言っていました。日本は大変活発な国で、どこに居ても常に声や音が聞こえてくる。横断歩道を渡っても、エスカレーターに乗っても、駅のホームで電車を待っていても、常に注意を促す声や音がする。ドイツでは速度違反を見つけたパトカーのサイレン位いしか音がしない。日本の騒音はどういうことから始まったことなのでしょうかね。

**パウハウス** 日本の皆さんは、あんなにたくさんの注意の言葉や音をちゃんと聞いているのでしょうか？

**松野** 殆ど聞いていません。(笑い)

**パウハウス** パトカーのライトの点滅も、たまになら良いが、絶えずでは困りますね。(笑い)

**松野** 幼稚園では横断歩道で黄色い旗をあげさせる。すると旗さえ上げれば安全と思い込み、左右を振り向いて安全を確認することは忘れていて。(笑い)

**ローマン** それは重大だ。日本に来たらまず右を見てそれから左を見るようにしましょう。(笑い)

日本で良いと思ったのはハンディキャップの人へのケアです。これは注目に値しますね。

**ローマン** 我々ドイツ側は鎌倉の市長が次の選挙でも選ばれるかに深い関心を持っています。(笑い)

**パウハウス** 湘南の皆さんが来年 Weimar をグループで訪問する考えはありますか？ 今度のわれわれの訪日がそのための刺激となることをいのっています。

**織田** 大変刺激になりました。来年 Weimar を訪問する予定はありませんが何れ訪問させて頂くことになるでしょう。その節はどうぞ宜しくお願いします。(笑い)

湘南では 20 年前から毎年ビアイベントをやっていました。その実績の上に 10 年前に鎌田・川本両氏の連携で Weimar からの支援をうけながら湘南日独協会を立ち上げるようになりました。

**ローマン** その創立式典には Weimar からはベッツェル会長とミュラー氏ら 4 名が参加したのを思い出しました。

**パウハウス** 私はフランクフルトの独日協会々員でしたが、ベルリンの壁が取れてすぐ、Weimar に移り、Weimar の独日協会創立に参画、理事になりました。最初は大変でした。Weimar 独日協会は今年で 17 年目になります。



松野さん

# 来湘 Weimar ご一行 鎌倉・江の島での日々

会員 莊林麻美子

この度、湘南日独協会の創立 10 周年記念に際して来日したワイマール日独協会の皆様の、鎌倉・江ノ島見学（10 月 17～18 日）に同行させていただきました。2 日間とも秋晴れのすばらしい好天に恵まれ、円覚寺での参禅、高德院でのお茶席、江ノ島神社の相原宮司訪問が盛り込まれた、体験型のプログラム構成でした。

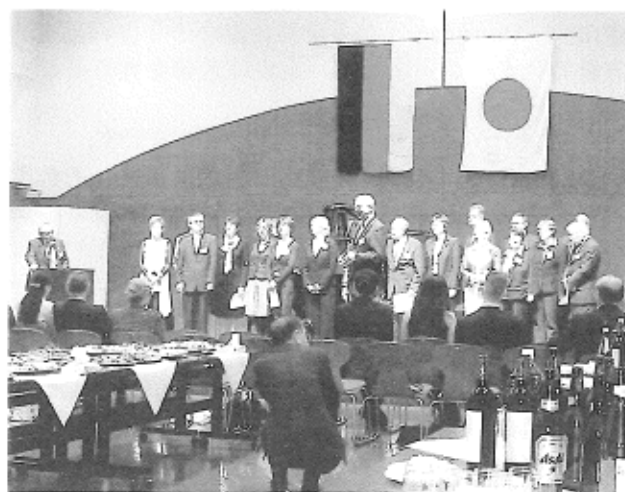
1 日目の鎌倉見学は、藤沢のホテルをバスで出発し光輝やく海を眺めながら早朝の報国寺に到着。朝の光に包まれた竹の庭を堪能しました。次の目的地円覚寺へ向かう車中、旅行参加者の中にドイツ人の禅マイスターのもとで既に坐禅暦 8 年という方もいらしたので、ドイツ人の視点から禅のお話もしていただきました。そのドイツ人禅マイスターは鎌倉で修業されたそうです。他の方にとっては坐禅は初めての経験、基本的な姿勢や呼吸法の説明をうけ、15 分間の坐禅を 2 度行いました。お坊様からは禅修業の意味について次のようにお話がありました：「無心になること」、さらに言葉を変えて「今していることに集中してその他一切の雑念を追い払うこと」、そして「禅の修業は実は特別なことではなく、日常生活で実践していただくことなのです」。

さて、参禅した皆さんの感想は？ 円覚寺での 1 時間を「体験」できたことをとても喜ばれたようです。銭洗弁天見学、華正楼での昼食、そして高德院での大仏見学とお茶席が続きました。お茶席では温かいおもてなしをうけ、生け花、軸物、お菓子、器、建築、お庭、歴史、「わび」「さび」の心から日本人の季節感まで様々なお話があり、奥の深いお茶の世界に触れて「静かな、印象深い一時を過ごした」との感想を聞きました。「お茶のマイスターになるには何年かかるのですか」との質問への、「私のお師匠さまは 80 歳になりますが、まだまだと言われます」との返答には皆さん深く聞き入っていた様子でした。

2 日目の朝は江の島へ出発。江の島神社参拝、巫女舞の奉



江島神社の参拝を終え、本殿前で相原宮司や巫女さんを迎えて記念のショット  
(撮影：吉田克彦氏)



祝賀会で挨拶するローマン会長と Weimar のみなさん  
(撮影：三谷喜朗氏)

納、弁天堂見学の後、展望塔に登り、午後は希望者は岩屋も見学しました。相原宮司は神社の歴史などのお話の後、質疑応答の時間を設けてくださいました。はじめはなかなか質問も出なかったのですが、「皆さんはキリト教團の方々ですね」との宮司の問いかけを機に、湧き出るようにたくさんの質問が出てきたのです。その中心は「日本では異なる宗教が平和に共存しているのですか？」との問いでした。仏教と神道の共存とそこからくる日本人の宗教観は、キリスト教の国々から見ると不思議なようです。私達にはなじみの深い七福神はインド、中国、日本の神様が「宝」の船に乗って描かれています。この「宝」は平和という宝物、つまり異なる宗教の神々が共に平和の船に乗っているのです。

このお話をして下さったのは、今回のツアーの下見で一緒した吉田事務局長です。樋口由美子さんが用意して下さった七福神めぐりの用紙と、立ち並ぶ土産物店のあちらこちらにある七福神の人形を見ながら、江の島での道中皆さんに世界平和のシンボルといえる七福神の話をしました。江の島神社からのお土産は嬉しいことに七福神の日本手拭いでしたし、ワイマールの皆さんの心に七福神のメッセージが生き続けていくことを願っています。2 日間訪問した先々で温かく迎えてくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。



DJGローマン会長、パウハウス副会長と海老根藤沢市長も一緒に祝賀会でのスナップ  
(撮影：三谷喜朗氏)